

しらねあおい (白根葵)

横の豊かさ、上の豊かさ

人間は、上、下、前、後、横などの空間を、どのような空間と感じているのだろうか。このことについて小此木啓吾氏が『人間の空間認識』というテーマで書いておられる。それによると、上は神仏などに通じる「気高さ」の空間、下は、地獄や悪魔的な空間であると同時に、「母なる大地」の言葉に象徴されるような産み育て支える「存在の基盤としての空間」である。大切な人を失ったとき、「支えを失った」と感じるのがそれだろう。

「前向き」という言葉があるが、前は「未来」の空間であり、後は「過去」の空間である。それゆえ前が閉ざされた末期の病人や老人は、過去の栄光や楽しかったことしか語る事ができなくなるのであろうか。

では「横」の空間はどうか。小此木氏は、妻の位牌に祈っている時、ふと横に「妻の存在」を感じた人の例を紹介しておられる。伴侶の存在を私たちは「横」に感じている。だから伴侶や仲間恵まれた人を「横の豊かな人」と表現することができるだろう。

私は杖塾で教師の話聞きながら、この人が自分の後（過去）、前（未来）、横（伴侶・同僚）、下（生きる基盤）をどのように実感して生きて来られたかということに絞って傾聴していることがある。希にこのような空間の豊かさを感じてほっとさせられる事例もあるが、多くの場合それは潤いがなく、瘦せた貧しい空間であり、やるせない気持ちにさせられる。

まだ駆け出しのころ、職場には未熟な私への「善意の眼差し」がいっぱいあった。私はそれに支えられ育てられた。紆余曲折はあったが、私が「前向きに」教師を続けることができたのはそのおかげである。その空間が今、失われつつあるとすれば一大事である。

上の空間は神仏に通じる「気高さ」の空間と書いたが、私は先達に対する畏敬の空間でもあると思っている。この点においても私は恵まれていた。私は先達に恥じぬよう、気高いもの、よりピュアなもの、より良いものを求めて、前向きにそして上に向かって歩むことができた。いまだに未熟者であるが、その方向性だけは間違わなかったような気がする。これから育つ若い教師にとっても、横も上の空間も豊かであってほしいし、豊かであるべきだ。

梅池（白馬岳中腹に位置する）の白根葵を見てきた妻が、この花の美しさに感動し梅池行きを勧めてくれる。梅池にこの花が咲くのは六月下旬、しかしこの時期は毎年多忙であって実現しない。…が、最近六甲高山植物園で、この花との出会いが叶った。（掲載の写真）しかし妻は、白馬の雪渓に咲くこの花はもっと綺麗なのだと言う。図鑑で調べてみると、「品種改良などで人間が手を加えていない野生種の中で最も美しい花」とも説明している。

私にとって北アルプスの山々は、先達のように神々しい空間である。その山の最も美しい花との出会いを夢見ている間は、まだまだ老いてはいないと、自分に言い聞かせる私である。

